

能登半島地震におけるETC2.0データの活用状況

令和6年2月29日

国土交通省 道路局 企画課
道路経済調査室

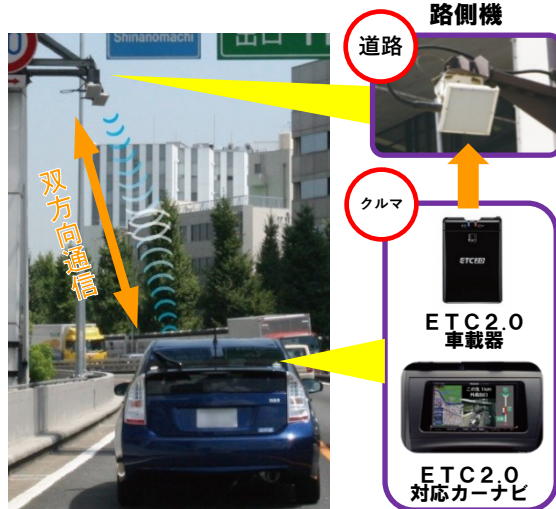
ETC2.0の機能

○これまでのETCと比べて、

- ・大量の情報の送受信が可能となる
- ・ICの出入り情報だけでなく、経路情報の把握が可能となる

など、格段と進化した機能を有しており、道路利用者はもちろん、道路政策に様々なメリットをもたらし、ITS推進に大きく寄与するシステム

データ収集

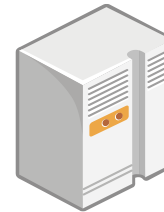


路側機(R5.4時点)
高速道路約1,800カ所
直轄国道約2,400カ所

車載器(R5.8月末時点)
約1.012万台

位置データ
加速度データ
車載器ID

データ作成 道路管理者



速度

経路

急ブレーキ

データ活用

渋滞対策

交通安全
対策

料金施策

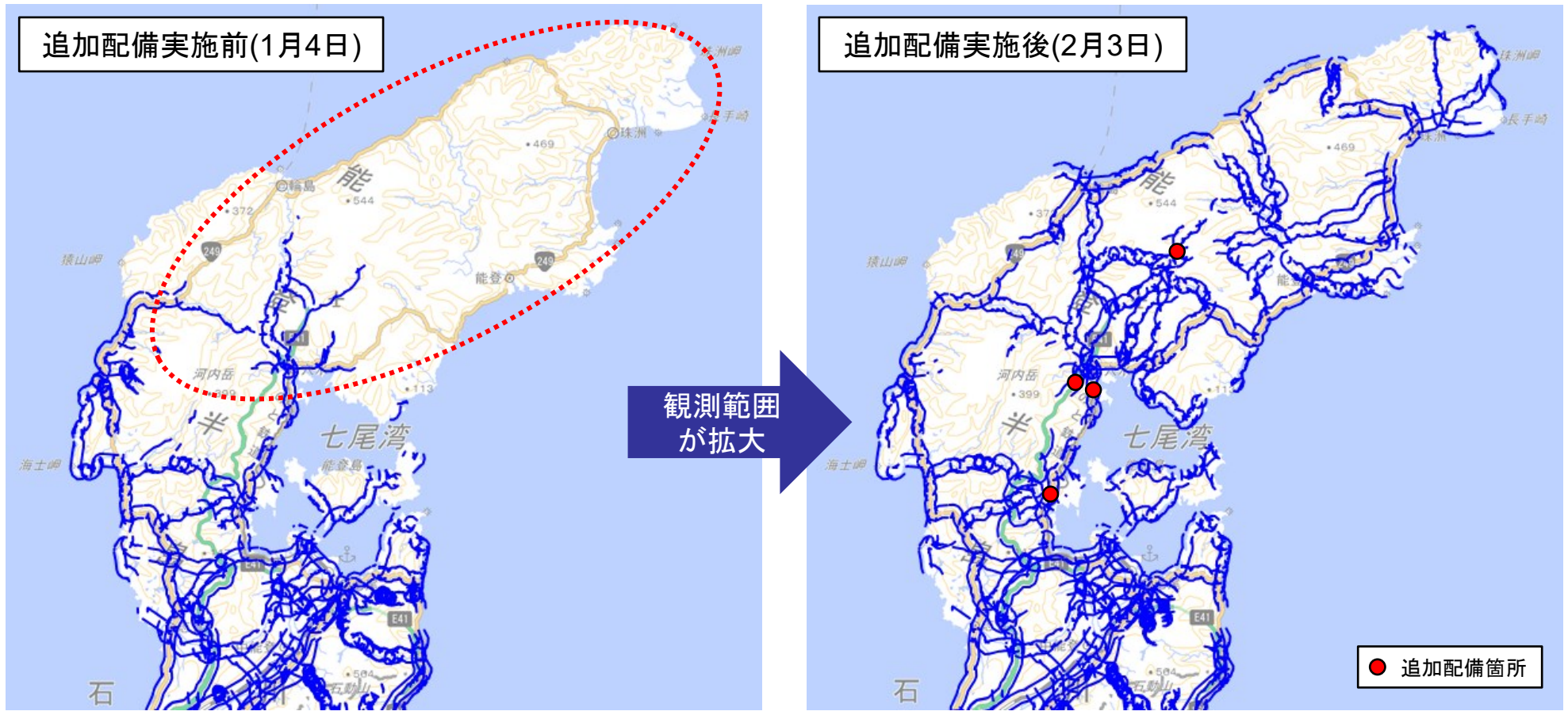
物流支援

公共交通
支援

能登半島地震におけるETC2.0データの収集

- 主に高速道路と直轄国道にETC2.0プローブを収集可能な路側機を配備 (全国約4,000箇所)
- 能登半島地震発災後、能登半島のデータ充実のため、可搬型経路情報収集装置を追加配備したことで取得可能な範囲が大きく拡大

追加配備実施前後のETC2.0プローブデータの取得状況



能登半島地震におけるETC2.0データの活用状況

- 「緊急復旧済み区間」「啓開作業状況」などとともに、ETC2.0データを活用した「都市間所要時間」「ETC2.0速度データ」を重ね合わせた道路復旧見える化マップをHPで公開
- 今後は、常時・災害時を問わず、必要な箇所のデータを必要なタイミングで観測できるよう、常設及び可搬型路側機の拡充を図るとともに、人流データやプローブデータなど民間が保有するデータの活用を推進していく

